

留学生の声エッセイ

経営学部 チョン ジェヒョン（鄭 載衡）

卒業目の韓国人が日本に留学してみて思ったのは

城西大学 経営学部 韓国人のチョン・ジェヒョンです。

たくさんの授業を受講しましたが、私にとって一番記憶に残る授業は留学生のための日本語の特殊演習です。この授業は私のような留学生を対象にする授業ですが、様々な国の友達に会える授業でもあります。

神村先生は留学生たちが楽しく日本語と日本文化を学んでほしいという気持ちが学生たちに深く伝わっているので、質問をしたりすると、難しい部分がある時に理解しやすく説明してくれます。

東西大学で4年生の卒業クラスに通っていたが、交換学生プログラムを通じて日本に来ることになりました。実は、私は単位や就職準備に没頭する学生ではありませんでしたが、未来に対する漠然とした恐怖はいつも心の片隅にありました。

それでも「大学生の時だけできる特別な経験はないだろうか」と思っていたところ、運良く交換留学プログラムに合格することになり、こうして日本の城西大学に来られることになりました。初めて日本に到着した時はときめきより不安が大きかったです。果たして私は慣れない環境の中でうまくやっていけるだろうかという心配が先立ったからです。

国際課の職員さんたちは不安そうな表情に気づき、明るい笑顔で迎えてくれながら「来るのに大変だったのではないかと暖かく言葉をかけてくださりました。おかげで緊張した心が少し解け、気楽に会話を始めることができました。学期が始まる前までも日本生活と大学環境によく適応できるようにいろいろと多くの努力をしてくださりました。そのおかげで、最初の不安を少しずつ克服することができました。

学期が始まってからは慣れない環境の中で多くの人々に会うようになり、緊張もたくさんしましたし大変な瞬間も多かったです。大学1年生の新入生の時以来の久しぶりに感じる感情でときめいたりしたが同時に心配も大きかったです。

そんな私にJISTの友達は積極的に声をかけてくれて、一緒に遊んだりしながらだんだん親しくな

りました。時間が経って振り返ってみると、短い時間の中でこんなに親しくなったというのが不思議なくらいです。

JISTの友達の肯定的な影響のおかげか、私もだんだん他人に積極的に話しかけることができる人になっていると感じます。授業とJISTの様々なイベントを一緒にしながらたくさんの友達を作り、今は日本にいる時間を大切にするために一日一日を熱心に生きて行こうと努力しています。

